

## 共同研究者への感謝

私は、この寄稿で紹介します金属ポルフィリン錯体を扱った研究を行う以前は、特異な電子状態に基づく機能・物性を発現する機能性配位高分子錯体の開発を行っておりました。当時、研究を行っていたカルボシキシラト架橋混合原子価三核金属(II,III,III)錯体どうしを繋ぐ架橋配位子として二つのメソ位にピリジル基を有する金属ポルフィリン錯体に着目し、三核ユニットと金属ポルフィリンの間での電子移動によって特異な電子物性を示す配位高分子を作れないかと思い金属ポルフィリン錯体を扱う研究を開始しました。しかしながら、合成は行うものの目的とする錯体は得られず、金属ポルフィリン錯体のピリジル基が隣接する分子の金属に配位する自己集合によって多孔性配位高分子が得られるのみでした。ポルフィリン分子が規則正しく並んで自己集合する結晶構造を眺めていて、効果的な光捕集が可能ではないかと思い予てより興味があった金属錯体による光エネルギーの捕集とそのエネルギーの利用に関する研究に着手しました。・・・